

この夏「平成30年度 JBDFはじめてのボールルームダンス(社交ダンス)指導者養成講習会 第1期」が全国6か所にて開催されました。これは、わたくしたちJBDFが、totoスポーツくじ助成事業として毎年開催しているもので、ボールルームダンス(社交ダンス)の特徴である「音楽」「運動」の両面から、「創造できる楽しさ」「人とのかかわりの調和」等の学びの体験を通じ、健やかな心身を育むことを目的に、学校、地域でのボールルームダンス指導の実践に役立つ実技と指導法を講習するものです。そして、この指導者養成講習会は、平成21年度より教員免許状更新講習として指定されています。

8月23、24日の両日は大阪府で近畿・中四国地区の講習会が38名のご参加を得て開催されましたので、その模様をお伝えしたいと思います。

1日目の最初は講義講習です。講師はJBDF理事でもある石川晋先生。



「生涯スポーツと学校体育そしてダンス」をテーマに、先生方が学校で教えることがあれば、JBDFが支援しますと熱く語られました。石川先生は総合型地域スポーツクラブの立ち上げなどに尽力されたご経験が豊富で、生涯スポーツについての確たるビジョンをお持ちです。

講義が終わるといよいよ実技講習です。

この講習で特徴的なことは、ステップを教えて踊れるようにするのではなく、踊りのリズムを体にしみ込ませ、簡単なステップで音楽とダンスを共有する楽しさを体感させるというところ。子供たちが楽しみながら、自分の頭を使って学習するための素材と考えれば、これはたいへん優れた手法と言えます。

まずはチャチャチャ。円を作ったり、グループに分かれて、ひたすらリズムを体に入れる作業を繰り返します。本部の講師は島輝子先生と桜田まゆ先生。今回は受講者数が多いこともあり、大阪府連盟の徳山久仁先生、松尾満希加先生と私の現地スタッフも、積極的に「お手本先生」になったり、指導のお手伝いをしました。もちろん講習会の目的に沿って、講習クルーの島团长のご指示のもと、出しゃばらずに受講生に寄り添うことを心掛けました。



そして、いよいよステップを学習します。

最初は「足が迷子になっちゃった」と戸惑っていた先生方も、気がつけばちゃんと踊れるようになっていきます。とても優秀な先生方で、こちらも一緒になって「やったー」「できたー」「天才やん」とテンションが上がります。



教員免許状更新先生の実技試験も見事に合格した後は、授業の展開例としてグループ毎にオリジナリティーを盛り込んだダンスを発表します。



さっき習ったステップを素材に、ホールドを変えたり、向きを変えたり創意工夫がいっぱいです。発表するペアも観客になった皆さんも笑顔でいっぱいです。



温かな眼差しで全体を見守り、優しくご指導くださった島輝子先生。

講評では、今回の大阪はグループの力というものを強く感じましたと語られました。まさにその通りで、みなさんがあつという間に仲良くなって、親しく助け合う様子には感心させられました。

第2日目の課題はワルツとジルバ。

準備運動、昨日の復習からのワルツのリズムエクササイズです。



少しずつステップを増やして、ホールドもしっかり組んで、皆さん立派なボールルームダンサーになりました。テストだってしっかりこなします。



ジルバも同じように進んでいきます。

真面目に学習、でもスゴイ笑顔、みんな仲良し、やっぱりできちゃうという流れで、どんどん上達です。



気がついたら、こんなに踊れています。



2日目の午後にはダンスビュー誌さんの取材記者さんが来られました。インタビューを受けた先生方、「楽しい講習会で、ちゃんとできても間違えても笑いが起こります」「自分がこんなに楽しいのだから、きっと子供たちも楽しくなると思います」などとの感想を答えてくださってました。教えることのプロである教員の先生方は学ぶこともプロ。その姿勢には、こちら也大いに学ばせていただきました。



特筆すべきは、競技会の審査員をされるダンスの先生方が何人も一般受講されたことです。「今すぐにごうこうではなく、10年、20年先を考えると、ここで学んでおくことは重要と思いました」と仰る先生には頭が下がる思いです。

実はこの日の大阪は台風の影響で、公共交通機関に大きな乱れが生まれました。

多少の遅刻はあったものの、全員そろって講習会を終えたことは大きな喜びでした。

温かな人々のふれあいとともに2日間の講習日程を終え、皆さん名残を惜しみながら会場を後にしました。秋の再会が楽しみです。

※受講生の皆様のご許可のもと、写真を掲載しております。